

平成22年度

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902120	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	NPO法人福祉ワーカーズコープふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	(238-0024) 神奈川県横須賀市大矢部3-30-6		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	7名
自己評価作成日	平成22年11月21日	ユニット数	1ユニット
		評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしく生き生きと毎日を過ごしていただいております。 職員同士励ましあい、刺激し合い切磋琢磨しています。 自分の子供を入れたいと思えるホームを目指しています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年12月15日	評価機関 評価決定日	平成23年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、京急線の北久里浜駅からバスで約5分、バス停から徒歩約8分ぐらいの小高い丘陵地帯にある。同一法人のデイサービス事業所が併設されている。周辺は集合住宅などが並ぶ住宅街で、緑も多く静かなたたずまいとなっている。道路を隔てたすぐ隣に大矢部小学校があり、祭りなどの行事には利用者も参加しやすい距離にある。</p> <p>【日常的な外出支援】 散歩などの日常的な外出は毎日でも希望があれば対応している。利用者が生き生きと過ごせるよう、買い物などの個別の意向に沿い、みかん狩り、バス旅行、夜間のイルミネーションの見学などに、職員も多数参加して積極的に出かけている。</p> <p>【食事を楽しむことのできる支援】 「自分がその立場になったときに、こうしてほしい」大事なことのひとつとして、食の安全への配慮・楽しみとしての食事を考えている。調理師や介護食士が、食材の色彩や栄養のバランスを考え工夫しており、訪問時には、利用者から思わず「おいしいわ」という声が出ていた。職員は、会話がはずみ、利用者が各々のペースで楽しく食事がとれるよう最良の環境を提供することに努めている。</p>

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふれんど
ユニット名	

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下、台所に貼り、いつも目に入るようにしている。シフト時、ミーティング時に確認し合い、実践している。	「自分自身がその立場になったとき、こうしてほしいと思うことを実現していきたい」という独自の理念に沿って、事業所が考える最良の環境を整えている。日々のサービスの記録などで、各職員が、理念を実践するために意識して取り組んでいる様子が見えた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、入居者とともにゴミ集積場の掃除をしたり、回覧板を回したりしている。近所の方が草むしりをしてくださることもある。ホームの庭のビワの実をおすそ分けしている。	大矢部3丁目自治会に加入し、餅つき大会などの地域の行事や隣の小学校での運動会、大矢部ふれあい祭りに利用者が参加している。中学生の福祉体験の場としてホームを提供した。民謡、詩吟、コーラスのボランティアが敬老の日に来所し、職員と一緒に楽しい時を過ごした。	地域の行事への参加や、ボランティアの来所、草むしり、ゴミ当番をするなど、地域住民として活動している。今後も普段の暮らしの中で、ふれあいを持つ機会を増やし、例えば近隣住民の避難訓練への見学、参加につなげていけるような間柄を作り上げていく取り組みにも期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が地域の集まりのときに、認知症についてのお話をさせていただいている。隣家の方が体調を悪くした時は、救急車の手配をお手伝いした。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価への取り組みについて、報告をしている。ホームの行事に参加していただき、入居者さまを知っていただくことにより、具体的な意見を伺えるようにしている。	運営推進会議は2か月に一度の頻度で開催されている。地域代表や民生委員、市役所の職員、利用者の家族などが出席する。ホームの様子や行事、医療連携について、消防設備工事の事などを報告している。意見や問いかけがあれば、回答し、双方向の話し合いとなっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の介護で疑問に思った事や、法令に反していないかなどわからない事があれば、お伺いしている。提出物等で、訪問した時、ホームの様子を聞いていただいている。	ホーム長が横須賀市のグループホーム協議会の役員を務めている。協議会の研修で市役所の職員に行政の話をしてもらい、市主催の研修にはホームから職員が参加して、協力関係を構築するよう取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関の施錠はしているが、希望があればいつでも開けている。普段出入りしているところは常に空いている。	玄関の施錠は侵入者防止の意味でしているが、リビングの掃きだし窓は施錠せず、いつも開けている。窓からは利用者がサンダルを履いて外に出ることができる。身体拘束防止の外部研修には毎年ホームから職員が参加している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ミーティングで報告している。職員のメンタルケアに注意し合うことが虐待を生まないことになると思っているので、よく声を掛け合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2人の入居者に後見人が付いていることもあり、制度について学ぶ機会がある。後見人が来所時には、よくお話を伺っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームのことをよく知っていただくように、お話している。契約後もいつでもホームに来て、入居者の様子など、何でも言っていただく様にお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所時には、必ず伺うようにしている。また、運営推進会議の時、家族代表の方からも御意見を伺っている。	日頃の様子を個人日誌で把握して、祭りなど家族の来所時に報告し意見、要望を聞いている。外出先の希望については意向に沿うようにしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個別でもよく話を聞くようにしている。シフトや手当の事など色々話している。内容によりすぐ反映できていることもある。	職員が日頃から意見、提案を言いやすい環境であると訪問時には見受けられた。夜勤や早出などシフトごとの仕事の分担の意見や、申し送りの書式について職員からのアイデアにすぐ対応した事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各講習会を受講している。処遇改善の申請をし、時給を上げた。職員が自ら、スキルアップの研修に参加を申し出て来ている。働きやすい環境を作る努力を代表者が考え、実践している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルにあった講習会に参加してもらい、一人ひとりのスキルアップを図っている。入居者、職員に対して的確な声掛けをしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域会議や講習会等で管理者が話し合う時間を作っている。敷地内のデイの2階を地域会議に使ってもらった。GH相互研修を行っている。おせち料理、もちの食べ方などの研修を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所直後の不安を取り除けるように、夜間などゆっくり話を聞いている。他の入居者と早く溶け込めるように、レクリエーションや会話を工夫している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>契約時には、出来る限りお話を伺っている。建物をご案内しながら、入居された後の生活が具体的にイメージ出来るように努めている。レクの様子も見させていただきようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族のお話や様子を伺いながら、必要なサービスを考えている。隣接のデイサービスを利用し、体調やメンタルも見せていただいている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は、自らの役割と共に、家族として、共に生活をしているという気持ちで介護をしている。食事を一緒に食べたり、TVを観ながら笑ったり泣いたりしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>御家族の来所を、入居者と一緒に喜んでいる。本人と家族の気持ちを考え、涙する時もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お知り合いの方が来所時には、またお越しくださるよう声をかけているが、再訪は少ない。地域の集まりに参加している方もいる。	本人の大切な人や場所を「基本情報」で把握している。近所に住んでいた利用者が、地域行事の餅つき大会や食事会へ参加することを支援をしたケースがある。墓参りを希望する利用者の家族と連絡をとり、一緒に墓参りに行くことが実現された。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合わない利用者同士の間には職員が入り、和やかに会話していただくようにしたり、お互いが気にならないように家具の配置を変えたりしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族から、ぬいぐるみをいただき、ホームのマスコットになっている。転居先でのご様子を報告に来てくださり、入居者様と交流してくださっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	小さなつぶやきや、訴えている眼を見落とさないように気を配っている。本人がどうしたいのかを伺いながら、気持ちを汲み取りながら臨機応変に対応している。	利用者の様子を「個人日誌」に毎日記載し、思いや意向の把握に努めている。一人ひとりの暮らし方の違い、年齢の差などに気を配っている様子が伺えた。帰宅願望のある利用者の思いを汲み取り、しばらく寄り添うように声かけをしていたことがあった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、サービス利用や生活歴などをよく伺うようにしている。入居後に知りえたことは連絡ノートなどに記入し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌などに入居者の御様子を記入している。職員が気付いたことなどを、記録している。その時に応じて対応している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画担当者が中心となり、それぞれの方により介護が出来るよう、連携医と話し合っている。介護計画も良く話し合っけて計画している。	個人日誌で毎日の本人の様子を記載し、変化に気づいたらすぐ計画作成担当者を含め幹部4人でミーティングを開き、見直しについて話し合いを行う。その内容は月1回の職員ミーティングで取り上げ結果については連絡ノートで職員全員に周知をはかっている。往診医や訪問看護師と連携をとり家族の意向も把握して現状に即した計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様それぞれの記録方法を実践している。記録から読み取れるものを共有して、介護方法や計画に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望で、色々な対応をしている。庭に出て日向ぼっこをしながら、隣接のデイサービスの方々とも交流を楽しんでいただいている。敬老会や、行事に出かけるときにも、ご一緒している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんがお話相手や敬老会に踊りを見せてくださったり、レクリエーションを行ってくださる。近くの小学校の行事に出かける時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>緊急時の受診に対応できない家族には、職員が対応している。かかりつけ医になんでも聞けるような体制をとっている。医療連携契約を交わしている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に継続して受診している方が1名いる。受診は原則家族が対応しており、受診結果について家族から報告を受けている。ホームで対応した場合は必ず家族へ結果を連絡している。月1回協力医療機関からの往診が、月2回メンタル面でクリニックの医師の往診がある。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者が普段のご様子と違うと感じた時は、記録している。往診時等に細かくお伝えしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、電話でご家族様からご様子を伺ったり、面会に行ったりしている。看護師にホーム帰所時の注意などを伺っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>一昨年看取りがあったが、医師、家族、訪問看護師、職員が、強いチームワークで、その方の為に何ができたかをよく話し合い、看取りすることができた。</p>	<p>重度化した場合は「ターミナル時の申し合わせ書」を基に説明し、同意をもらうことになっている。今年、医療連携契約を締結し重要事項説明書を作り直した際、重度化した場合の対応について、本人・家族へ説明した。協力医療機関の看護師長が看取りについての研修を行い、職員が対応できるよう体制を整えている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを壁に貼ってある。ミーティング時によく話し合い、ロールプレイングしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。色々な場面を想像し、対応できるように話し合っている。地域との協力体制づくりが課題となっている。	年に2回避難訓練を行っている。夜間想定や避難路の確保などについて、毎月のミーティングで話し合っている。年に1度定期的に消防設備の点検を行っている。今年中に消防署立会いで消防訓練を行う予定である。水や乾パンの備蓄がある。近隣との協力体制はこれからの課題である。	ホーム内での訓練は実施されている。今後は普段の暮らしの中で、地域とふれあいを持つ機会を増やし、近隣住民の方に避難訓練への見学や参加をしてもらえるような間柄を作り上げ、非常災害時の協力体制を築く取り組みに期待したい。
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならず、とって、あまり角ばらないような声掛けを心がけるようミーティングで話し合っている。気付いた時には、職員同士注意している。	個人情報や鍵のかかるキャビネットで保存している。プライバシーに関する研修は、新人は入職時に、現任は年に5回行われている。研修結果はミーティングで取り上げ、他の職員の前で発表・報告している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を伝えていただけるような声掛けをすべての職員が心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたいこと、みんなでしたいことなどを伺いながら、その日の動きを決めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を伺いながら、服を選んでいただいている。時折、マニキュアや口紅をつけていただくと、ホームが華やぐ。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、下ごしらえ等すべて手伝っていただくようにしている。下膳は危なくないように見守っている。お茶碗拭き、テーブル拭きもお願いしている。	調理師が3人、その中には介護食士もあり、食材選びから食の安全に配慮している。訪問時、利用者は工夫を凝らした食材の配色や職員とのやりとりを楽しみながら、利用者それぞれのペースで完食していた。職員と共に楽しそうに食事の準備や片付けを手伝っている利用者が見受けられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録している。水分は、食事、おやつ時に十分とっていただけるように声掛けをしている。夜間ペットボトルを居室に置いておくようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は每晚手入れをしていただき、洗浄剤につけておく。毎朝職員が洗い、入れていただいている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員が各入居者の排泄パターンを把握していて、声掛けをしている。	個人日誌で個人の排泄パターンをチェックし、誘導している。トイレに行きたくなると落ちつかなくなる利用者に対して、職員がリズムをつかんで誘導し、落ち着くようになったケースがある。失禁しても声かけに工夫したり、トイレ内では1人にするなどの配慮をし、自立を維持できるように支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便しやすい環境づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は決めている。入浴日も偏らないように決めてはあるが、本人の希望により対応している。	入浴日は夏は1日おきに、冬は週2回が原則であるが、本人の希望に合わせた個別の入浴が可能である。入浴をしたがらない利用者には声かけを工夫したり、一番湯に入ってもらうなど対応している。入浴が長時間で負担にならないように、最後に入ってもらい、バスタブの中で体を洗うなどの配慮をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、居室で休んでいただくよう声掛けをしている。入床はそれぞれのペースで入床している。気温、湿度に注意している。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用などは、ミーティング時や連絡ノートで確認している。服薬は職員二人で確認し合っている。新しい薬が処方された時には、ご様子をよく観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだり、自室の掃除を職員と行ってもらっている。新聞でゴミ箱を作っていただいている。時節に合わせたおやつなどをお出しして、楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>お天気の良い日は、お弁当を持ってドライブに行っている。イベントや、近くの小学校の運動会、地域の餅つき大会に出かけている。地域や家族の協力をお願いしていない。</p>	<p>近くの公園や隣の小学校などに日常的に散歩に出かけている。外出の希望があれば、毎日のように対応している。個別に買い物に行きたいという利用者にも同行したことがある。みかん狩りやお花見、日帰り旅行など盛りだくさんの予定が随時組まれている。職員は車いす対応で協力し合い、外出の機会を増やせるよう努めている</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望により買い物に出かけているが、現金は、ホームでお預かりしているので直接使うことはない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話は自由に使ってもらっている。家族からプレゼントが届いたときなどは、お礼の電話を入れていただいている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安全を考慮して人感センサー付きの照明器具に取り換えた。室温、湿度の調整もこまめに行うようにしている。室内は季節を感じられるような飾り付けをしている。</p>	<p>季節感が感じられ居心地よい空間となるように壁面に飾りつけがあり、行事の写真が貼られている。手作りの日めくりカレンダーは、利用者が毎朝めくり楽しく日にち曜日の確認ができる。ダイニングテーブルの両側にはソファが置かれ、いつでもくつろげるようになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室でゆっくり過ごしていただけるようにしている。リビングのテーブルとは別のスペースにソファを置いてある。2Fホールにもソファを置き使っていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身で作ったものや、イベント時のプレゼントを飾り楽しんでいただいている。本人の思いを伺うようにしている。	居室は洋室と和室があり、それぞれの部屋にタンスや仏壇など使い慣れたものを持ち込んでもらい、自分の家と同じように落ち着いて過ごせるように配慮している。各居室には防災カーテンが取り付けられ、クローゼットや押入れの収納スペースが広くとられていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の目線の案内プレートを作っている。自分で必要な物が取れるように置いてある。段差のあるところには、手すりを設けたり、色テープを張ったりして安全を心掛けている。		